

## 日本の家族

### Leslie Mullins

Mount Waverley  
Secondary College  
Victoria, Australia



学習者年齢： 11～13才  
日本語レベル： 初級  
文化面の目的： 日本の家族関係について理解する  
日豪の家族のあり方を比較する  
学習する日本語： 家族の呼び名  
“お父さん, 父”

#### 学習目標

生徒にとって身近なテーマである家族について取り上げ、日本語には場面と人間関係に応じた呼び名があることを学習する。また、日本の家族について調べたことを発表し、呼び名の背景にある日本の家族関係について理解を深め、日豪の家族のあり方を比較する。

#### 授業の進め方

##### <ゲーム1>

1. まず、教師が授業の内容と目的を説明し、教室のセッティングを始める。生徒は2チームに分かれ、2列で向き合うように座る。
2. 一方のチームは、自分の家庭内での呼び名（「おとうさん」「おにいさん」など）を書いた帽子をかぶり、相手方は自分の家族の対外的な呼び名（「父」「兄」など）の書いてある帽子をかぶる。
3. 各チームに1人ずつ帽子をかぶっていない人がいる。先生が家族のどれかのことを呼んだら、相手チームのその人物を探しだす。先に見つけて帽子に書いてある日本語を読み上げたほうが勝ち。例えば、

先生が「father」と言ったら、「父」または「お父さん」と書いてある帽子を探し、声に出して読む。

4. 帽子に書いてある呼び名が正しく読めたら、そのチームに得点が入る。毎回、各チーム内で帽子を交換し、どの帽子の人がどの場所に座っていたかわからないようにして、何回かくり返す。得点の多かったチームに賞品をあげてもよい。

##### <ゲーム2>

生徒がカードを作成する。家族について調べたこととゲーム用の指示を表に書き（例えば、家族の誰かを帽子をかぶった生徒の中から探す）、裏には指示の答えとなる人物の呼び名を日本語で書いておく。

1. ゲーム1とセッティングは同じだが、ゲーム用のカードは教師用の机に置いておく。
2. 一方のチームから1人が前に出て、カードを1枚ひく。日本の家族について書かれていることを読み上げ、実行する。指定時間内に終われば、1ポイント獲得。各チーム交代で行う。
3. 日本の家族について学んだことを

レポートにしたり、語いテストを実施したり、自分の家族を紹介する文章を書かせると、より効果的である。

#### 外国語学習と文化理解

言葉は、文化と密接なかかわりをもっている。外国語で真のコミュニケーションを図るには、構文や文法を知っているだけでは不十分である。また、文法的な違いも、文化的な背景によることが多いからである。場面に応じてどんな言葉を使うか、どんな文体を使うべきかを考慮しなければならない。

文化理解の重要性は、書き言葉、話し言葉やジェスチャーについてもいえるが、最も難しいのはジェスチャーである。語いや文法は、言語の道具で、文化理解はその道具をいつどのように使うべきかというルールを与えてくれる。したがって外国語の授業では、言語学習と文化理解という2つの過程が同時進行するように思われる。文法や語いなど言語の構成要素の学習を積み上げるとともに、生徒たちが学習言語を話す人々の文化に共感を覚えるように導くことが重要である。